

小田原市民ホール開館記念  
「市民優待企画」事業

# 小田原男声合唱団

創立50周年記念 第50回定期演奏会

小田原三の丸ホール 大ホール

2021年12月4日（土）

開場 13:00 開演 14:00

後援 日本男声合唱協会(JAMCA)  
神奈川男声合唱協会(KAMCA)  
湘南合唱連盟  
小田原地区合唱連盟

本プログラムの表紙デザイン背景は1972年5月16日に開催された創立記念  
第1回定期演奏会のもを復刻しました。



## 小田原男声合唱団第48回定期演奏会

令和元年11月30日

### < 50周年お祝いの言葉 >



小田原市長

守屋 輝彦(もりや てるひこ)

小田原男声合唱団が創立50周年を迎えられ、記念演奏会が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

貴会は、1971年の発足以来、関係者の皆様の大変ご熱心な取り組みにより、50年という長きにわたり、地域に根差した数々の演奏会でその成果を発揮されるなど、今日まで質の高い充実した演奏活動を続けてこられました。皆様の活動を通じた地域文化の振興、向上へのご貢献に対し、心から敬意を表する次第です。

また、海外公演も3度実施され、小田原市の姉妹都市であるアメリカ合衆国チュラビスタ市の合唱団とも親交があると伺っております。平成24年に、姉妹都市提携30周年を記念した市民訪問団がチュラビスタ市から本市に来訪された際には、合唱で歓迎のおもてなしをしてください、ありがとうございます。

連綿と受け継がれる歴史の新たな1ページとして、本日、小田原三の丸ホールにその歌声が響き渡ることを楽しみにしております。長い歴史に裏打ちされた皆様の演奏は聞く者の心を癒し、魅了することでしょう。

最後になりますが、小田原男声合唱団の益々のご発展と皆様のご活躍を祈念し、お祝いのことばといたします。

日本男声合唱協会(JAMCA)  
事務局長  
鈴木 順(すずき すなお)



小田原男声合唱団は、日本男声合唱協会(JAMCA)の中心メンバーであり、その活動を支えていただいています。全国の社会人男声合唱団が集まり、情報を交換し、2年に一度、会員が参加する演奏会を開催します。そんな活動が強いリーダーシップを持った先輩たちのおかげで、50年間続いてきています。この活動を途絶えさせではなりません。

昨年の春から、新型コロナウイルスの流行により、私たちが愛する合唱活動にも大きな制約が加わることになりました。どんなに歌うことが好きであっても、それが人に病気を感染させるリスクになるとい情報流布されると、活動を自粛するしかすべはありませんでした。その後、多くの専門家の努力によって、より安全に合唱活動、発表会が行えるガイドラインが発表され、徐々にではありますが再び歌える喜びを感じられる状況になってまいりました。

そのような厳しい環境の中であっても、「オダダン」はリモートでの練習を積極的にを行い感染対策を十分に行うたうえでコンサートを開催してきました。私たちの先頭を切って演奏活動を再開されたことに感謝し、心から声援を送ります。



神奈川男声合唱協会(KAMCA)  
会長  
川添 鉄也(かわぞえ てつや)

創立50周年記念演奏会おめでとございます。小田原男声合唱団は神奈川男声合唱協会(KAMCA)の創設を推進された設立メンバーで、結成記念演奏会はこの小田原で1995年に開催されました。合同演奏で外山浩爾先生の指揮のもと「月光とピエロ」を歌ったことが懐かしく思い出されます。KAMCAはその後、神奈川県内各地で演奏会を開催し、2013年には第10回の記念演奏会を再び小田原市民会館で開催しています。

残念ながら2020年に計画した第16回演奏会は新型コロナウイルスのまん延により中止になってしまいました。ここ2年間は合唱を愛する者にとって苦難を耐え忍ぶ日々になりました。そんな中、貴団は昨年暮れに第49回演奏会を実施されましたね。練習もままならない中どうやって実施できたのか、感服の至りです。市民の皆さんの温かいサポートがあつての事でしよう。

そして今年も緊急事態宣言等で練習が制限される困難の中、準備をされていよいよ演奏会が、新設された音楽ホールで開催されます。素晴らしい演奏会になることは間違いありません。そしてその感激を新たに、次のKAMCAの演奏会で一緒に歌える日を楽しみにしています。

## ＜ ご挨拶 ＞



小田原男声合唱団

団長

斎藤 恵司(さいとう けいじ)

本日はご来場有難うございます。お陰様で私たち小田原男声合唱団は創立50周年を迎えることが出来ました。

その創立50周年記念第50回定期演奏会を、この新装された三の丸ホールで開催できる喜びは、本当に大きなものです。

この2年間の社会情勢は合唱活動を続けることにとっても厳しいものでした。5年前の第45回定期演奏会の私の挨拶文では「団員の合言葉(よく口にする言葉)に『2度目の東京オリンピックをこの目で見よう、そして50周年の記念演奏会のステージに立とう』があります。」と述べています。当時の団員の平均年齢は71歳程度でした。4年後、5年後まで、元気に歌い続けようとの思いが溢れていました。ところが1年延期された東京オリンピックは、ほとんどが無観客での開催。そして小田原の定期演奏会についても、演奏会を本当に開催できるのか。という不安を抱える状態でした。それでも何とか、昨年(2023年)の12月には第49回定期演奏会を行い、団創立50周年の節目の今年、第50回定期演奏会を開催するまでにこぎつけました。感染拡大防止等の様々な制約も生じ、盛大に祝うというわけにはいきませんが、とにもかくにも、50周年記念の演奏会を開催できることは嬉しい限りです。

今年(2024年)は1月～3月中旬、そして8月と約3か月程度の練習休止期間がありましたが、本日のステージに立つメンバーは、この記念すべき演奏会を充実させるために努力を重ねてまいりました。特に50周年記念委嘱作品『わきめもふらず。ジグザグに。』については、40周年記念委嘱作品『わが詩友』と同じ信長貴富先生の作品でもあり、本当に意欲的に練習休止中も自主練習も進めていました。皆さんに、この曲の素晴らしさをお伝えできたいことを願っています。また、小田原創立から15年間常任指揮者を務めていただいた福永陽一郎先生が編曲された曲集や、創立30周年記念の多田武彦先生の委嘱曲と、小田原の歴史を振り返るレパートリーを演奏させていただきます。

さて、50周年があれば、さらにその先60年、70年と続かなければなりません。小田原が活動を繋げていくことを切に望みます。創立当時は30歳代が中心のメンバーでした。その50年後では……。今や人生100年といわれる時代です。今のメンバーがこれからも歌い続けること、そして新たな仲間を増やし続けることに努力していきたいと思えます。

最後になりましたが、これまで本当に長い間、小田原を応援していただいた皆さん、そして団員の合唱活動を支えていただいたご家族の皆さんにも心から感謝を申し上げます。また、小田原市民ホールの開館企画事業として三の丸ホールでの演奏会を認めていただいた小田原市にも感謝いたします。

## 創団50周年によせて

名誉指揮者 外山浩爾

50周年誠におめでとございます。

この間22年間お世話になりました。練習は楽しく、時に厳しくもりましたが、団員の前向きで、好奇心が強く、熱心な態度に思わず、もつと……もつと……と上を目指してしまいました、団員の方々は良くついて来て下さいました。

「継続は力なり」小田原男声は、この言葉通りです。これから息の長い合唱団でいてほしいです。

本当におめでとぅ！！

## 創団100年に向けた歩みを

常任指揮者 辻 秀幸

本日は小田原男声合唱団創団50周年記念演奏会の為に新装になりました市民会館、小田原三の丸ホールにご来場賜りまして誠に有難うございます。

……と申しあげたいところではございますが、今日は本当にコンサートが行えているのでしょうか？実は私の原稿をコロナウイルス新規感染者数・重症者数が日々最多を更新し続ける8月の半ば過ぎに書いております。先も見えませんが何より今が全く見えておりません。小田男もワクチン接種率がほぼ100%を誇る高齢者集団では有りますが、それでも流石に8月の練習は自粛の憂き目を見ております。演奏会当日までにコロナ禍が収束すると言いつける医療関係者はほぼ居りません。安全安心を掲げる愚かな指導者たちにより強行されたオリンピック・パリンピックの影響はどう出たのでしょうか？しかしそんな中でも唯一私は感動したことがあります。集まつて話し込み、酒を酌み交わすことの大好きだったメンバーが中心だったので、小田男は無くなつちまうのではないかと思っていたのですが、酒抜きでもこの団は存続しました。暑い夏も空調設備がない会場で歌い続けたのです。彼らは「歌も大事、否、歌こそ大切だった」のであります。

本日はどの曲も素晴らしい小田男の香りがしみ込み込んだ曲ばかりお届けします。信長氏に新曲委嘱し本月初演させて頂きます組曲は、全く初演の匂いがありません。あたかも小田原男声合唱団の団歌・団紹介の歌のようです。男声合唱のノウハウや楽しみを知り尽くしたもう一人の指揮者村田雅之、発声を極めたヴォイストレーナー 杉山範雄、一人女性が入っていることを忘れさせ共に活動して下さるピアノの名手 中根希子、この誰一人欠けても成り立たぬ音楽スタッフ陣も誰一人ビビることなく、しかし常に慎重に練習を支えてくれました。今日はいったい何人のお客様に聴いて頂けるのでしょうか？今日までみんな無事に過ごしてこれたのでしょうか。帰りに一杯やれるんでしょうか？何があろうとも、明日から我々小田男は創団100年に向けて歩みを続けます。その日に尚生存の可能性を僅かに持った新人も入って来てくれました。末筆ながら皆様が無事らしいクリスマスと希望溢れる新年をお迎え下さいませます様に祈りつつご挨拶とします。

# <プログラム>

## 第1ステージ 黒人霊歌集より

福永 陽一郎 編曲

指揮 辻 秀幸  
ベース 江上 靖  
ソロ 杉山 範雄

- I. Go down Moses
- II. Mary's boy child Jesus Christ
- III. Soon-a will be done
- IV. Deep River

## ベース 伴奏 江上 靖

洗足学園音楽大学卒業、同大学専攻修了。コントラバスを中博昭、菅野明彦氏に師事。東響、ナゴヤシティ管弦楽団、東京シティフィル、シエナ・ウインドオーケストラ等の公演に多数出演する。  
県立伊志田、大和、茅ヶ崎北陵高校吹奏楽部指揮者。西湘フィル指揮者。小田原ジュニア弦楽合奏団講師。玉川大学吹奏楽団演奏指導員の他、秦野響、小田原フィル、横浜金沢響など多くの団体のトレーナーを務める。

アンサンブルメンバー。小田原オペラアンサンブル代表。

## 第2ステージ 男声合唱組曲「西湘の風雅」

大木 惇夫 作詩 多田 武彦 作曲

指揮 村田 雅之

- I. 酒匂川
- II. 野茨と蜜蜂の中へ
- III. 春来れば
- IV. 風と葦切
- V. 赤き屋根
- VI. 海音

## 第3ステージ 小田男 思い出の曲

- I. 森の歌声 アメリカ学生歌
- II. 大島節 伊豆大島民謡
- III. からたちの花 北原 白秋 作詩
- IV. 雨 八木 重吉 作詩

福永 陽一郎 編曲  
福永 陽一郎 編曲  
山田 耕笹 作曲  
多田 武彦 作曲

指揮 村田 雅之  
指揮 辻 秀幸

## 第4ステージ 男声合唱組曲「わきめもふらず。ジグザグに。」

<初演> 50周年記念委嘱曲

及川 均 作詩 信長 貴富 作曲

I. わき目もふらず。ジグザグに。

II. 夜の機関車

III. マカハンニヤハラミツダ

IV. 日常茶飯的

指揮 ピアノ  
辻 秀幸  
中根 希子

# < 曲目解説1 >

## 1. 黒人霊歌集より

Go down Moses「行けよ モーゼ」

旧約聖書の出エジプト記の物語をのべた、最もよく知られた霊歌の一つ。イスラエルの民を奴隷生活からつれ出しモーゼは、黒人たちにとって最大の英雄であって、少しでも指導的な能力を持つ黒人は、よくモーゼとあだ名された。一人の指導者のかけ声に他の大勢が答えかえす、という形式につらぬかれた、力強い歌。

Mary's boy child Jesus Christ「マリアの小さな男の子」

ジャマイカに伝わるカリブ・リズムの霊歌の一つ。クリスマス物語をうたっているが、ここには大陸の奴隷生活から生まれた歌の暗さがない。速い方のリズムミックスな歌だが、本来の姿だが、ペラフォンテが、ゆっくりとした語りかけのような方を創唱した。

Soon-a will be done「やがて終りの日が」

題意は、聖書にいう最後の審判の日とも考えられるが、単純に「死んで天国にゆける日」と受けとってよい。元歌は二部分形式で、機関銃を打つようなはげしいリズムと、願望の強さのために高揚する短かいフシとが交互にあらわれて、力強い迫力を生み出す。霊歌としては、珍しく、はげしさでつらぬかれた歌。

Deep river「深い河」

芸術的に完成された形で、演奏会でしばしばうたわれたため、非常に有名になった歌。

元歌として知られたものは、少なくとも二種類あり、その組み合わせは、編曲者によってさまざまである。

「深い河」という言葉の意味は、「超えられぬ線」ということで、北部と南部の境界線、あるいは大西洋、又は生死の境目というふうに、いくつもの解し方ができる。

## 2. 男声合唱組曲「西湘の風雅」 大木 惇夫 作詞 多田 武彦 作曲

男声合唱組曲『西湘の風雅』は、小田原男声合唱団の第30回記念定期演奏会の委嘱作品として、作曲家・多田武彦先生によって、詩人・大木惇夫の処女詩集『風・光・木の葉』(大正14)、第二詩集『秋に見る夢』(大正15)の中から6篇が選ばれ作曲された。詩人・北原白秋と大木惇夫の接点点小田原であったことは知られているが、大木惇夫は既に県立広島商業高等学校当時、白秋の詩集『思ひ出』を読み、私淑していた。初恋人・川上慶子との出会い、別れ、再会、結婚の中で肺結核を患う妻のために、新聞小説の入選を機会に文学活動と転地療養の地として小田原を選ぶのである。白秋は既に小田原に在住し、再び旺盛な文学活動の拠点としていた。童謡雑誌『赤い鳥』の編集もその一つである。大木惇夫は、一年後、その白秋を訪ね知遇を得、白秋が鬼籍に入る昭和17年11月まで、強い絆の師弟関係が続くのである。処女詩集『風・光・木の葉』は、白秋の序文を得て出版されたのは当然である。白秋の友人、木下奎太郎は拜呈された詩集の序文の肩に「コノ序文ガナカツラモツト好イ詩集トナツタデアラウ」と奎太郎一流の辛口メモを残している(神奈川県立近代文学館所蔵)。発刊当時の雰囲気伝えてはいいだろうか。

「酒匂川」

妻・慶子を亡くした5年後の詩集『冬刻詩集』(昭和13)の詩「風を愁えて」に「酒匂川、淼々(べうべう)たりや、/ わが夢は風を愁得て / 湘南の水を離れず、/ あひ會はで幾日過ぎ來し」とある。大木惇夫にとって「酒匂川」は、妻・慶子に重なる重要なモチーフであり、石を投げる行為は、妻の不治の病に対する悲しみの表象であろう。

「野茨と蜜蜂の中へ」

詩集『殉愛』(慶子よおまえを歌った)(昭和40)は、妻・慶子の思い出のために既刊の詩集の中から選んだ詩をまとめたものである。その第五部「野あそび」に収められている。小田原時代がいかに充実し、二人にとってかけがえのない時間であったことが読み取れる。詩集『殉愛』には、「在りし日の慶子」の写真が掲載されている。

「春来れば」

大木惇夫が大磯の「鳴(しぎ)立つ庵」に立ち寄った時の印象を想い出している一篇。西行法師への挨拶をかねて「春来れば 鴨立澤の磯寺の潮のかをりのそぞろしのばゆ」の短歌を詩の冒頭に置いている。大木夫妻にとっての春とは、妻・慶子の病気の全快であり、そのことを密かに磯砂に筆草で記すことにより祈ったのであろう。

「風と葦切」

大木惇夫が初めて白秋に会った時に持参した草稿の中的一篇であろう。白秋の知遇を得た後、全ての詩を没にし、改めて試作を始めている。しかし、草稿の中から棄て難い十三篇の詩を残し「昔日の歌」章としてまとめている。風鳴琴はエオリアンハープのことで、共鳴板に多数の弦を張り風のある所に置いて和音を楽しむものである。「ひろごり、ほそり、絶え、つづく」慶子への想いを風鳴琴の音に託したのであろう。「風」は慶子であり、「葦切」は惇夫自身であろう。

「赤き屋根」

白秋は「木兔(みみずく)の家」の隣に3階洋館を建て、本格的に小田原での文学活動を始める。大正10年4月に生涯の伴侶となる佐藤菊子を迎え、白秋が望んでいた生活が始まる。翌年3月、長男隆太郎の出産を控え慌ただしい白秋邸に大木惇夫は訪問するのである。一度は面会を断られるが再度門をたたき、何らかの偶然が作用し面会を許されている。一篇の詩「小曲」を見つけた白秋は、その夜遅くまで詩談に花を咲かせたということである。大木惇夫の通い慣れた白秋山荘への道が「野茨の道」として小田原の文学散歩道の一つであることは、市民の誇りである。

「海音」

大木惇夫は白秋が鬼籍に入った二日後、東京新聞紙上(昭和17. 11)で次の様な追悼文を書いている。「(略)漂泊のおもひとどめ難く、自分が博文館を辞して、小田原に仮寓した頃のことであった。一卷の草稿以外には無一物であった自分に、かくも深い愛情と熱意をこめて説き、自分が詩を以て立つ決意促してくれた一むしろ強い先生こそは二つなき恩人である。(略)大木惇夫自身の漂泊する青春を詠んだ詩であらう。「友よ」と呼びかける対象は、海を隔て米國に住み、後の妻となる慶子自身でもあるかもしれない。また、文学の道を目指し上京する自分自身への固い決意かもしれない。

# ＜曲目解説2＞

## 3. 小田男 思い出の曲

今までに私達が愛唱してきました曲の中から、皆様にも馴染み深く・良くご存知の歌を中心に、思い出の曲でステージを構成いたしました。いろいろな機会を通し、今後も他の曲を含め歌い継いでいきたいと思っています。

### 森の歌声

アメリカの学生の為に創られた曲で、三沢 郷 の作詞・福永陽一郎の編曲により、小田原男声合唱団の定期演奏会のオープニング曲として、第一回から演奏されている曲である。

### 大島節

東京都伊豆大島の民謡。明治初期、大島野増(のまし)村(現 大島町)の人々が茶もみの労作唄として歌い出したものだとされ、『野増節』とも呼ばれていた。この『野増節』に、横浜市あたりで歌われていた茶の火入れ再製作業の労作唄『お茶場節』が取り入れられ現在のメロディとなったと言われている。

### からたちの花

山田耕柞と北原白秋は親交が深く、多くの歌曲を共同で作している。その様な関係の中から、1925年(大正14年)にこの歌が発表された。 耕柞は10歳で父が病死し養子に出され、活版工場で勤労しながら夜学で学んだ。耕柞は自伝において、工場で辛い目に遭うと「からたちの垣根」まで逃げ出して泣いたと述懐している。 この歌は耕柞のこの思い出を白秋が詞にしたものである。

### 雨

詩稿 『母の瞳』(大正 14. 9)八木重吉は、処女詩集 『秋の瞳』(大正 14. 8)発刊時、詩人勝承夫に返書で「50歳になればほんとうの詩がかけてくる。50歳までは準備だ」と書き送っている。 肺結核はその時間を与えず、享年29歳を一期に夭折した。

## 4. 男声合唱組曲「わきめもふらず。ジグザグに。」 及川 均 作詩 信長 貴富 作曲

### 信長 貴富

本日は演奏会のご開催、誠にありがとうございます。小田原男声合唱団が50周年という記念すべき時を迎えられたことはもとより、今日に至るまでのコロナ禍を乗り越えて演奏会を実現されたことに、心からお祝いを申し上げます。

10年前、40周年の際に『わが詩友』(詩＝三好達治・丸山薫)という曲集を作曲し、オダダンの皆さんと札幌での初演、そしてお膝元小田原での再演を一緒に懐かしく思い出しています。50周年にあたって再び作曲の機会をいただいたことは大変嬉しい出来事でした。

今回、構想を練るに際して前作『わが詩友』で描いた友情の世界の流れを汲むものを思い浮かべていました。その一方で、世界はコロナによる厄災に覆い尽くされ、人が集まることや歌い合うことが難しい状況の真っ直中にあり、そんな中で人々の心をつながりについて思いを向けることは、切ない苦しみを伴う作業でもありました。きつと再び集える日が戻ってくるかと力強く信じ続けるしかありませんでした。

さて、今回選んだのは及川均(1913～1996年)の『焼酎詩集』(1955年)から4篇です。文字通り、酔っ払いの歌というわけですが、そこにあるのは諧謔と哀愁の入り混じるほろ苦い世界です。生きていくことは徒勞で、窮屈で、酒場を一步出れば寒風吹きすさぶ世知辛さと孤独が際立つばかり。そんな頹廢の風景を、詩人は醒めながらユーマラスな詩風に落とし込んでいます。

4篇のどれもが二行一連の形式と定型的な語調を備えていて、歌謡的な雰囲気を持っており、そのため今回の作曲では徹底して明確なメロディを示し、ある種の世俗的な雰囲気を持たせることに意識を向けました。そのため時として詩の順序を入れ替えたり行を省いたりして有節歌曲の形式(1番・2番のような形)を整えたりもしています。

人が集まり肩を寄せ合う、歌い合う、酒を酌み交わすといったことは、人間が人間であるために逃れることのできない営みと言えるでしょう。音楽もまた然り。コロナ禍を経て、音楽への憧れは一層大きく膨らむばかりです。

40周年の際には外山浩爾先生にお世話になりましたが、外山先生ご勇退のあと引き継がれた辻秀幸先生の指揮によるオダダンは、また新たな顔を見せてくださるのではないかと期待しています。小田原男声合唱団の皆さんが今作をどんなふうに歌ってくださるか、楽しみでなりません。

# ＜プロフィール＞

## 常任指揮者 辻 秀幸



東京藝術大学声楽科及び同大学院独唱科修了。1985年イタリアミラノを中心にヨーロッパへ音楽遊学。1986年イタリアのノバラ市国際声楽コンクール入賞。その後、欧州数都市でベートーヴェン「第九」のソリストを務め、各地でコンサートに出演し好評を博す。オペラでは古典から現代に至るまで、数多くの作品に出演し、その優れた演技力と歌唱力は、新聞・音楽誌上度々絶賛された。特に宗教音楽の演奏家としての活躍は目覚ましく、バッハ、ヘンデル、ハイデン等の宗教

曲・オラトリオの演奏ではソリスト・エヴァンゲリスト、指揮者として、その活動は常に注目を集めている。指導に当たっているアマチュア合唱団は15を数えている。洗足学園音楽大学講師、東京藝術大学講師、国立音楽大学講師、日本合唱指揮者協会副理事長、東京都合唱連盟副理事長、日本演奏家連盟会員、(社)Harmony for JAPAN理事。全日本合唱連盟季刊誌「ハーモニー」編集委員・[ヒデさんは観た！]を連載中。合唱講習会講師、合唱コンクール審査員、NHK全国学校音楽コンクール審査員、全日本合唱コンクール全国大会審査員を務める。2016年、当団の常任指揮者に就任する。

## 指揮者 村田 雅之



石川県出身。中学時代より吹奏楽で指揮者、合唱部でピアノを務める。横浜国立大学工学部を卒業。在学中はグリーククラブに籍を置き、1年次より学生ピアノリスト、3年次からは学生指揮者を務める。在学生からは一般合唱団や講習会に参加、合唱全般の研修を積み栗山文昭、松下耕、伊東恵司の各氏から影響を強く受ける。音楽関連会社に勤務の傍ら、なにかわコラリアーズ、合唱団お江戸コラリアーズ(全日本合

唱コンクール全国大会、同声合唱の部、金賞・最優秀団体・文部科学大臣賞・シード合唱団)に於いては、歌い手の他、指揮、ピアノ、打楽器を担当する。横浜国立大学グリーククラブ、立正大学グリーククラブ、男声合唱団東鶴(あづまつる)、Kiyohachi Bravo'sなどの合唱団に於いて指揮、ピアノ、アンサンブルレナーナーを務める。2014年トレナーナーとして、小田男で指揮・ピアノを担当する。2016年、指揮者に就任する。

## ピアノ 中根 希子



小田原市出身。東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。第3回長江杯国際音楽コンクール第2位等多数入賞。ウィーン、シカゴ等の音楽セミナーマスタークラス参加、ディプロマ取得、終了演奏会出演。1999年ポーランド共和国大使館後援「日本ポーランド国交樹立80周年記念及び国際シヨパン記念演奏会」に出演。植田克己、佐藤俊、ノエル・フロレスの各氏に師事。1999年ポーランド共和国大使館後援「日本ポーランド国交樹立80周年記念及び国際シヨパン記念演奏会」に

出演。2007年以降、「市民による小田原音楽フェスティバル」では、小林研一郎・末廣誠・広上淳一・富澤裕・山田和樹・黒岩英臣・佐藤眞・瀬山智博の各氏の指揮のもと、第九・モーツァルトレクイエム・ドイツイクイエム・メサイア等の演奏会でピアノアシスタントを務める。2009年ウィーンフィルメンバー・シュェトイデ弦楽四重奏団と共演、2012年、2015年小田原でのソロリサイタル開催他、2013年ヴァイオリン・豊嶋泰嗣、2014年小田原フィルハーモニー、以降天満敦子他著名人との共演、いずれも好評を博す。2021年小田原三の丸ホールに於いて、ピアノ選定に貢献、9月にはピアノ開きソロコンサートを開催、好評を博す。

## ヴォイストレーナー 杉山 範雄



小田原少年少女合唱隊に入隊。ルネッサンスから現代まで多くのアカペラ・アンサンブルを学ぶ。東京藝術大学音楽部声楽科を経て、これまでに、「コシ・ファン・トゥッテ」ドーン・アルフォンソ、「カルメン」エスミーリヨ、等を演じ、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「戴冠ミサ」「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」、フォーレ「レクイエム」等、演奏会バスソロにて多数出演、小泉ひろし・小林研一郎・飯森範親等、各指揮者のもとソ

リストを務める。また、合唱指導等にも意欲的に取り組み、合唱祭の講師等を務める。東京、神奈川を中心に、コーロ・しるふれい、金沢混声合唱団、In Pace、栄女声合唱団、ぶどうの会、鎌倉市民混声合唱団、北鎌倉女声合唱団、アンサンブル朝、コーロ・フォレスト、秦野混声合唱団等の常任指揮者を務める。明治大学グリーククラブ、小田原男声合唱団、横浜混声合唱団、中央区プリエール・ジュニア・コーラス等の歌唱指導に取り組み。杉友会優しい合唱講座講師。神奈川県合唱連盟副理事長。

## ＜ 小田男50年を振り返る ＞

### 小田原男声合唱団50年の歩み

- 1 常任指揮者の豪華なリレーは他の合唱団からも羨ましがられています

福永陽一郎先生



外山浩爾先生



辻 秀幸先生



1971～86

1996～2015

2016～現在

- 2 実<sup>は</sup>男声合唱協会でも中心的役割を果たしているのです

1974年 JAMCA（日本男声合唱協会）加盟 75年以降隔年の定期演奏会に参加  
現在理事団体

1994年 KAMCA(神奈川県男声合唱協会)の発足に尽力 第1回の演奏会を小田原で行う

- 3 諸々の記念コンサートに招待されています

1977年 東海メールクワイヤー第1回ジョイントコンサート  
1986年 福永陽一郎先生還暦コンサート  
1991年 福永陽一郎先生追悼コンサート  
2001年 石井 敏先生傘寿祝賀コンサート  
2017年 辻 秀幸先生還暦祭り

2019年 石井 敏先生没後10周年記念コンサート

- 4 海外合唱団との交流や海外演奏も団員の楽しみの一つです

1980年 ベルリン・リーターターフェルとの合同演奏会  
2006年 ウイーン演奏会（ウイーンコンツェルトハウス）で「月光とピエロ」他を演奏  
2007年 日独交換演奏会でアルベルト・フィッシャー合唱団と共演

2010年 第43回サンフランシスコ桜祭り 日米合唱コンサートに参加

小田原市姉妹都市チェラヴィスタ訪問 演奏会出演

2011年 チェラヴィスタ市訪問使節 歓迎レセプションで演奏

2014年 ドイツ遠征 アルベルト・フィッシャー合唱団と共演

- 5 感動的な客演指揮でした

1987年 黒岩英臣氏 第16回定期演奏会 「エレミアの哀歌」

1989年 畑中良輔氏 第18回定期演奏会 「TOSTI 名曲集」から

「草野心平の詩から」

1991年 多田武彦氏 第20回定期演奏会 「柳河風俗詩」

1992年 外山浩爾氏 第21回定期演奏会 「光の海」

1996年 石井 敏氏 第25回定期演奏会 「枯れ木と太陽の歌」

2014年 辻 秀幸氏 第43回定期演奏会 「土の歌」

- 6 創立当初は合唱コンクールに出たこともありません

1973年 全日本合唱コンクール全国大会 銅賞受賞



# Members 2021 小田原男声合唱団

T1	加藤 重喜 (秦野市)	宏治 (小田原市)	B1	上利 (小田原市)	B2	一色 (秦野市)
	河田 一男 (伊東市)	武人 (秦野市)		池田 伊東 (秦野市)		磯田 幸男 (小田原市)
	齋藤 惠司 (伊勢原市)	清邦 (秦野市)		伊東 清邦 (秦野市)		坂口 宗夫 (小田原市)
	露木 聰 (小田原市)	万里 (小田原市)		岩越 万里 (小田原市)		佐々木 秀昭 (秦野市)
	中島 弘光 (南足柄市)	卓男 (鎌倉市)		江川 卓男 (鎌倉市)		鈴木 壽久 (南足柄市)
	水城 高嶺 (秦野市)	岡部仁之助 (秦野市)		岡部仁之助 (秦野市)		田島 達也 (南足柄市)
		加藤和信 (小田原市)		加藤和信 (小田原市)		野口 吉昭 (横浜市)
		菊池 義彦 (小田原市)		菊池 義彦 (小田原市)		廣瀬 友二 (秦野市)
		下村 興毅 (小田原市)		下村 興毅 (小田原市)		柳田 圭一 (湯河原町)
		中村 敬 (南足柄市)		中村 敬 (南足柄市)		
		西山 隆行 (秦野市)		西山 隆行 (秦野市)		

名誉指揮者  
外山 浩爾

常任指揮者  
辻 秀幸

指揮者  
村田 雅之

ピアノ  
中根 希子

ヴォイス  
トレーナー  
杉山 範雄

## 運営スタッフ

団長	齋藤 惠司	T1	齋藤 惠司
副団長	鈴木 壽久	T2	福井 隆
事務局長	杉本 健二	B1	加藤 和信
団内指揮者		B2	一色 義信
技術部長	福井 隆	T1	露木 聰
財政部長	廣瀬 友二	T2	高瀬 昇次
事業部長	河田 一男	B1	中村 敬
団員部長	高瀬 昇次	B2	磯田 幸男
渉外部長	鈴木 壽久		
情報部長	上利 宏治		
財政監査	青野 幸夫		
	田島 達也		
	杉本 健二		
JAMCA	鈴木 壽久		
KAMCA			

## 定演・50周年記念プロジェクト

河田 一男	河田 一男		
一色 義信	一色 義信		
江川 卓男	江川 卓男		
坂口 宗夫	坂口 宗夫		
下村 興毅	下村 興毅		
千葉 陽一郎	千葉 陽一郎		
露木 聰	露木 聰		
土肥 雄一	土肥 雄一		
水城 高嶺	水城 高嶺		
柳田 圭一	柳田 圭一		
福井 隆	福井 隆	舞台	
高橋 茂樹	高橋 茂樹	写真	
稲子 紀夫	稲子 紀夫	録画	
坂口 尚夫	坂口 尚夫	譜捲り	
柏木 晶子	柏木 晶子	受付・案内	
小田原 木曜会	小田原 木曜会		
南エコーラス	南エコーラス		
市文化サポーター	市文化サポーター		

## 団員募集

2022年12月に第51回定期演奏会を行います。是非この機会に一緒に男声合唱の醍醐味を楽しみませんか。  
ご連絡をお待ちしております。

練習日時: 毎週火曜日 18:30~20:45 月1回日曜日 13:00~17:00

練習会場: 谷津公民館(小田原駅西口より徒歩7分)

会費: 月額4,500円(大学生は半額、高校生は免除)

なお、未経験の方のために練習用音源を用意します。

連絡先: 杉本 健二 電話0465(73)0037

ホームページ: <http://odadan.org/> (小田原男声)で検索してください

## I 第一ステージ

### 男声合唱曲

#### 『黒人霊歌』

Go down Moses

When Israel was in Egypt's land,

(Let my people go!)

イスラエルの民がエジプトの地にいた頃

(わが民を解き放て)

Oppress'd so hard they could not stand,

(Let my people go!)

ひどく虐げられて立ち向かうこともできな

かった (わが民を解き放て)

Oh, Go down,

行け

Way Down in Egypt's land,

エジプトの地に下れ

Tell ole Pharaoh,

Let my people go!

ファラオに告げよ

わが民を解き放て、と

Thus saith the Lord bold Moses said,

主は勇敢なるモーゼに告げさせた

If not, I'll smite your firstborn dead,

Let my people go!

「さもなければ、わたしはお前たちの初子を撃

ち殺すであろう。 わが民を解き放て」

Mary's boy child Jesus Christ

Long time ago in Bethlehem,

So the Holy Bible say,

Mary's boy child Jesus Christ,

was born on Christmas day.

昔、昔 ベツレヘムで

このように聖書は言っている、

マリアの御子 イエス・キリストが

クリスマスの日にお生まれになったと。

Hark! Now hear the Angels singin' an' new

King borns today,

and man will live for evermore,

because of Christmas Day,

聞け 天使たちの歌声を

王が今日お生まれになった

永遠の時を生きる人が

クリスマスの日に。

Trumpet sound an' the Angels singing,

Listen what they say that man will live for

evermore, Because of Christmas day.

トランペットが天使の歌を奏でている、

彼らが何と言っているかお聞きなさい、

永遠の時を生きる人が

クリスマスの日に。

While shepherd watched their flocks by night,

They see bright new shining star and they hear

a choir sing, it seemed to come from afar.

夜羊飼いが彼らの羊の群れをみている間に、彼ら

は新しく輝く星を見た、また合唱隊の歌を聞いた。

それは遠くから聞こえてくるように思われた。

Mary's boy child Jesus Christ, He's born on

Christmas day.

マリアの男の子イエス・キリストがクリス

マスの日に生まれた

Joseph and his wife Mary came to Bethlehem

that night. They find no place for to born

her child, not a single room was in sight.

ヨセフと彼の妻マリアは、その夜ベツレヘム

にやってきました。が

彼女の子供を産む場所を見つけれなかった。

一つとして部屋らしいものは見えなかった。

Then by and by they find a little nook

in a stable all for lorn, and in a manger

cold and dark Mary's little boy was born.

そうしているうちに厩屋となった馬小屋で

小さな片隅を見つけた。この片隅の

冷たくて暗いまぐさ桶の中でマリアの小さな

男の子は生まれた。

Three wise men tell old King Herod we hear a new

king born today. We bring Him frankin' cense and

myrrh, we came from far away.

三人の賢者は年老いたヘロデ大王に言った。

我々は、今日新しい王がお生まれになったと聞

いた。我々は新しい王のために乳香と没薬を

待って遠くから来たのですと。

When old king Herod,

He learn this news he mad as he can be, He tell the  
wise men fine this child so that I may worship He.

ヘロデ大王はこのことを聞き、激怒し賢者に告  
げた。この子を見つけて出してください。私も  
彼を拝みたいからと。

Soon-a will be done

Soon-a will be don' a wid de troubles of de worl',

この世の苦しみはもうすぐ終わる

Goin' home to live wid God.

神と共に暮らすのだ

I want' meet my mother,

母に会いたい

Goin' to live wid God.

神と共に暮らすのだ

I want' meet my brother,

兄弟に会いたい

Goin' to live wid God.

神と共に暮らすのだ

I want' meet my Jesus,

イエス様に会いたい

Goin' to live wid God.

神と共に暮らすのだ

(注) wid=with de=the

Deep river

My home is over Jordan, Lord!

私の住むべき家はヨルダン川の向こう側にある

Deep river Lord

深い川 ああ主よ

I want to cross over into campground

私は川向こうのあの集いの地に加わりたいたいの  
です。

Oh, don't you want to go to the Gospel feast,

Oh! Promis'd Land, where all is peace

Oh! Deep river, Lord!

I want to cross over into campground.

おー あなたは福音の喜びを求めませんか

おー 約束の地よ

全てが平和な地よ

おー 深い川 主よ

私は川向こうのあの集いの地に加わり  
たいのです。

## II 第二ステージ

男声合唱組曲

『西湘の風雅』 作詞：大木 惇夫

### 酒 匂 川

酒匂の岸の松林

たそがれは煙のごとくかかすみゆき

また青みゆく遠き山脈、

瀬の音もいよよつのるに

おのづから

口笛を吹き

石なげて

ひとりありそびぬ、

波がしら白きあたりに。

詩集『秋に見る夢』より

### 野茨と蜜蜂の中へ

野茨の花もよかった、

その蜜を吸ふ蜂もよかった、

けい子よ、この茨蜜を嗅ぐと

どうやら風祭の匂ひがするではないか、

あの白い路ばたで言葉を交はした

見知らぬ若者の匂ひがするではないか、

健康と純朴の匂ひ、

あの時の草いきれの匂ひ、汗の匂ひ、

ほんとうに光と熱の発酵した

五月の匂ひがするではないか、

どうだ、けい子、

あの野茨と蜜蜂の中へ帰って行かうか。

おまへの健康を、

発酵とした「昔」をとりかへすために。

註「風祭」は小田原在の地名。

詩集『風・光・木の葉』より

## 春来れば

春来れば、  
鳴立沢の磯寺の  
潮のかをりのそぞろしのばゆ。  
磯べには、筆草とやらも生えつらめ、  
知る人はその草折りて、西行ならね  
世の儂ごと砂のうへにも書くならめ。  
春来れば、鳴立沢の磯寺の  
その磯砂もそぞろしのばゆ。

詩集『風・光・木の葉』より

## 風と葦切

いづこより生まれ来て  
いづこへ行くか、  
風ひとり汀を過ぐる。  
風ひとり汀を過ぐれば、  
葦原の葦の葉そよぎ、  
籠り啼く葦切の声も吹かれて……

……風鳴琴のなるごとく  
ひろごり、ほそり、  
絶え、つづく。

その果てしなきルフランは、  
ふるさとの  
遙かなる日のねむり唄。

ああ、風遠く  
いづこへ行くか、  
忘れ得ぬ唄をおくりて。……

詩集『風・光・木の葉』より

## 赤き屋根

一 小田原谷津にて。

野茨の道をすぎゆけば  
師の家ありとわれ思ふ。  
野茨の道をすぎゆきて  
裏山づたひ、薮ぬけて  
けやき林のかなたなる  
赤き覺の見ゆる辺に  
われや幾たび忍びけむ、  
訪はで幾たび帰りけむ、

いつも日ぐれの帰路に  
著我は寂しき花なりき

野茨の道をすぎゆけば  
師の家ありとわれ思ふ。

詩集『風・光・木の葉』より

## 海音

巨人あり、  
おごそかに、ほら貝を吹く、  
一日われ、海辺にたちてそを聴けり。  
そはひろごりて、渚に、岸に、  
雲の蔭まで反響する  
太古の音いろ、  
あやしき海の唄なりき。  
一唄は語りき、きれぎれに  
生を死を、  
昔を今を、  
なべての国の言葉なき言葉もて。  
をりからの落日に

水平のかた、ノアの方船あらはれ隠れ。  
コロンバスの帆船かがやき消えぬ、  
現身は涙にぬれて幻のごとく。……

友よ、この不思議なる法螺貝を聴かんとするか、  
そが秘めたる唄ごゑを、  
青き、はた蒼薇いろの息吹きをば。

さらば行け、海のほとりに、  
心むなしく眼を閉ぢて、耳を澄ませよ、  
巨人あり、おごそかに、ほら貝を吹く。

詩集『風・光・木の葉』より

### Ⅲ 第三ステージ

#### 『小田男 思い出の曲』

##### 森の歌声

アメリカ学生歌

ゆうべ森をふく 風の言葉は たえに懐かし  
今宵その森に 歌をささげよ Tra la la la  
若きその歌 若き懂れ 若きひとみ 若きかんばせ  
楡の梢に 夜風渡れば 星は輝き 月もとくいでよ  
La la la la  
若きその歌 若き懂れ 若きひとみ 若きかんばせ  
聞けや この夜 風はひそかに ちち色の夢  
まどかに煙る 森の宴を その森の歌を

##### 大島節

伊豆大島民謡

ハアー わたしや大島 御神火育ちよ  
胸に煙りがよ 絶えやせぬよ  
ハアー つつじ椿は 御山を照らすよ  
殿の御船はよ 灘てらすよ  
ハアー 乳ヶ崎沖まじや 見送りましよがよ  
それからさきをばよ 神だのみよ

##### からたちの花

作詞：北原白秋

からたちの花が咲いたよ 白い花が咲いたよ  
からたちのとげは痛いよ 青い針のとげだよ  
からたちはははたの垣根よ いつも通る道だよ  
からたちも秋は実るよ まろい金の玉だよ  
からたちのそばで泣いたよ みんな優しかったよ  
からたちの花が咲いたよ 白い花が咲いたよ

##### 雨

作詞：八木重吉

雨の音が聞こえる 雨が降っていたのだ  
あの音のように そと世のために働いていよう  
雨が上がるように 静かに死んでゆこう

### Ⅳ 第四ステージ

#### 男声合唱組曲

#### 『わきめもふらず。ジグザグに。』

作詞：及川 均

わきめもふらず。ジグザグに。

生きてることの 徒勞のために。  
わきめもふらず まず一杯。  
ウラニウム状の夜ともなれば、ここもとなく  
「ウー」なりましますからね。  
焼鳥。煮込み。ひややっこ。  
正陽門外正陽楼 (チャンヤンメンワイチョンヤン  
ロー) の烤羊肉 (カオヤンロー) といきたいが。  
どうにも軌近きゆうくつで。  
ご存知のように 不知意、不随意。  
しばらく軒昂を祝うには、決してこれにかぎりま  
する。

わきめもふらず ジグザグに。  
わきめもふらず ジグザグに。

昨今しきりに きなくさく、旗と旗とがざわざわ  
ざわざわ  
けれども大儀だから、絶対、旗持ちなどはおこと  
わり

まして、いわんや、おいておや  
にがくてからいところがいい。

ぐでんぐでんの 果の果の果  
やわらかいところへ行きます。  
一杯の後には、また一杯

胃の腑が承知しないままでは、しかたがないから飲  
むまでです。わきめもふらず ジグザグに。  
兄弟よ、飲め。飲むにかぎる  
わきめもふらず ジグザグに  
揺籃の墓へ  
ぼくら わきめもふらず ジグザグに

#### 夜の機関車

夜の機関車、夜の貨車、僕はどこからやって来  
て、どこへ行くのか。  
さてまた、どこへ行くと言うのか、

確かに僕は飲んでいた。あの液体に似たものを。血のような、水のような、火薬のように燃えるもの。

投げ入れろ、燂おきに。お前の黒いものを

投げ入れろ、燂おきに。錆色さびいろレールを 突つ走れ。

夜の渚は凍こっていて

夜の貨車は行く、夜の鉄橋てつきょう。

どうやら初夜しよややら、午夜みだやらの、夜の深さをふらりふらり。

払はらわなかつた借か銭せんやら、どう消しようもない破廉恥はれんちやら。忘わすれると言いうことはめでたいことだ。

投げ入れろ、燂おきに。お前の黒いものを。

投げ入れろ、燂おきに。消えたランプを 灯ともすのだ。

我が友よ、お前の罪状は明白で。  
もう夜が明ける、朝はまぢかい。

投げ入れろのだ。なお燃えさかる黒いものを。

投げ入れろ、燂おきに。お前の黒いものを。

投げ入れろ、燂おきに。錆色さびいろレールを 突つ走れ。

### マカハンニヤハラミツダ

マカハンニヤハラミツダ

わき目もふらず、ジグザグに

暗い階段を のぼり くだり またのぼり

とにかくここままでやって来て

どうやら僕らこうして肘ひじについて

ああ ああ マカハンニヤハラミツダ

生きてることの徒勞たうらうのために

まず一杯といくわけだが

さとおもむろに口をしめし

また何とやらかんとやら

コップを握にぎった手つき気にして

はじめはおつとり飲みだすわけだ

小皿にこぼれた分もすすって合図あひづをする

「へえ！ おかわりチュウ一杯」と怒鳴るのだ

命あつてのこんなものだねで

こうしてどうやら肘ひじについてる

マカハンニヤハラミツダ

まだまだおいんおいんと泣くには早く

依よつて僕ら偽善者の風にならわらず

ああ ああ マカハンニヤハラミツダ

景気、不景気、首尾、不首尾。

ホレタカ ハレタカ フクレタカ

鯛たいの頭も信心から 鯛たいの尻尾は何カローリ

静かに「会計は幾らか」と聞いて  
おもむろに立ち上がる

そして つとめて、つとめて、何気なく

そこを立ち去るのだ

わき目もふらず、ジグザグに

マカハンニヤハラミツダ

### 日常茶飯的

一月は吹雪、五月はリラ、夜明け。

生きてること、楽しいこと。僕ら杯をもて。

飲みほせ。日常茶飯的に。

にわとり（鶏）は鳴く。夜明けだ、夜明けだ

と。暗い夜の底で。うら悲しい声で。

けれども僕らは話さない。

おお、君は言え。あたりをはばかりながら。

湿ぬった声こゑを押おし殺ころして。

おお、君は言え。おお、君は話せ。

神妙しんめうに胸をはって。

このみちゆき（道行）は、これしか無いと。

けれども僕らは知っている。

今は、たしかに暗い夜の底。

夜明けはまだだが、

夜明けにまどおかないことを。

夜明けはきびしく寒いから、

寄り添ようて堪たえることを。

0———、おお、君は言え。あたりをはばかりながら。湿ぬった声こゑを押おし殺ころして。

おお、君は言え。おお、君は話せ。

神妙しんめうに胸をはって。

このみちゆき（道行）は、これしか無いと。A—

一月は吹雪、五月はリラ、夜明け。

生きてることは楽しいから。

夜の深さを、杯を手に話すのだ。

吹雪について、リラについて。死の商人の、

のど笛について。

勇気と愛について、杯を手に話すのだ。

小唄を口ずさむよう、日常茶飯的に、

僕らは日常茶飯的に、勇気について。

一月は吹雪、五月はリラ、夜明け、夜明け。A—

## 群青

福島県南相馬市立小高中学校  
平成24年度卒業生・構成小田美樹

ああ あの町で生まれて  
君と出会い  
たくさん思い抱いて  
一緒に時間を過ごしたね  
今 旅立つ日  
見える景色は違っても  
遠い場所で 君も同じ空  
きっと見上げてるはず

「またね」と手を振るけど。  
明日も会えるのかな  
遠ざかる君の笑顔 今でも忘れない

あの日見た夕陽 あの日見た花火  
いつでも君がいたね  
あたりまえが 幸せと知った  
自転車をこいで 君と行った海  
鮮やかな記憶が  
目を閉じれば 群青に染まる

あれから2年の日が  
僕らの中を過ぎて  
3月の風に吹かれ 君を今でも思う

響け この歌声  
響け 遠くまでも  
あの空の彼方へも  
大切な すべてに届け  
涙のあとにも 見上げた夜空に  
希望が光ってるよ  
僕らを待つ 群青の町で

きつと また会おう  
あの町で会おう  
僕らの約束は  
消えはしない 群青の絆

また 会おう 群青の町で・・・

## コロナ感染防止上のお願い

### 1 会館からのお願い

- (1) 換気は常に行っていますが、お客様同士の距離を考慮して館内では常時マスクの着用をお願いします。
- (2) トイレを利用する場合は、密にならないよう、距離を取って並んでください。
- (3) こまめな手洗い、手指の消毒をお願いします。
- (4) ご気分の悪くなった方は、近くの係員にお申し出ください。
- (5) 館内での飲食はお控えください。
- (6) 退場する際は、ホールで密にならないよう、放送の指示に従ってください。

### 2 主催者からのお願い

- (1) 演奏効果上マスクを使用しませんが、科学的検査結果以上に距離を取っていただきますので、ご理解ください。
- (2) 演奏後の団員との交流はできませんので、ご理解ください。
- (3) ロビーやホワイエでは、人との距離を1メートル以上離し会話は必要最低限に留めてください。
- (4) ブラボー等の声援はお控えください。

あなたの座席番号 列 番

# 小田原市民ホール開館記念

## 「市民優待企画」事業

### 小田原男声合唱団

#### 創立50周年記念第50回定期演奏会

##### 第1ステージ 黒人霊歌集より

- I. Go down Moses II. Deep River III. Soon-a will be done  
IV. Mary's boy child Jesus Christ

指揮 ベース  
ソロ

秀幸 靖  
江上 杉山  
範雄

##### 第2ステージ

- 男声合唱組曲「西湖の風雅」 大木 惇夫 作詩 多田 武彦 作曲  
I. 酒匂川 II. 野茨と蜜蜂の中へ III. 春来れば IV. 風と葦切  
V. 赤き屋根 VI. 海音

指揮

村田 雅之

##### 第3ステージ

- 小田男 思い出の曲  
森の歌声 アメリカ学生歌 福永 陽一郎 編曲  
からたちの花 北原 白秋 作詩 山田 耕笈 作曲  
大島節 伊豆大島民謡 福永 陽一郎 編曲  
雨 八木 重吉 作詩 多田 武彦 作曲

指揮  
指揮  
指揮  
指揮

村田 雅之  
辻 秀幸  
村田 雅之  
辻 秀幸

##### 第4ステージ 50周年記念委嘱曲<初演>男声合唱組曲「わきめもふらず。ジグザグに。」

- 及川 均 作詩 信長 貴富 作曲  
II. 夜の機関車 III. マカハンニャハラミッタ

指揮  
指揮  
指揮  
指揮

辻 秀幸  
中根 希子

##### IV. 日常茶飯的

小田原三の丸ホール 大ホール

2021. 12. 4 (土) 開場 13:00 開演 14:00

全席自由 ¥1,000

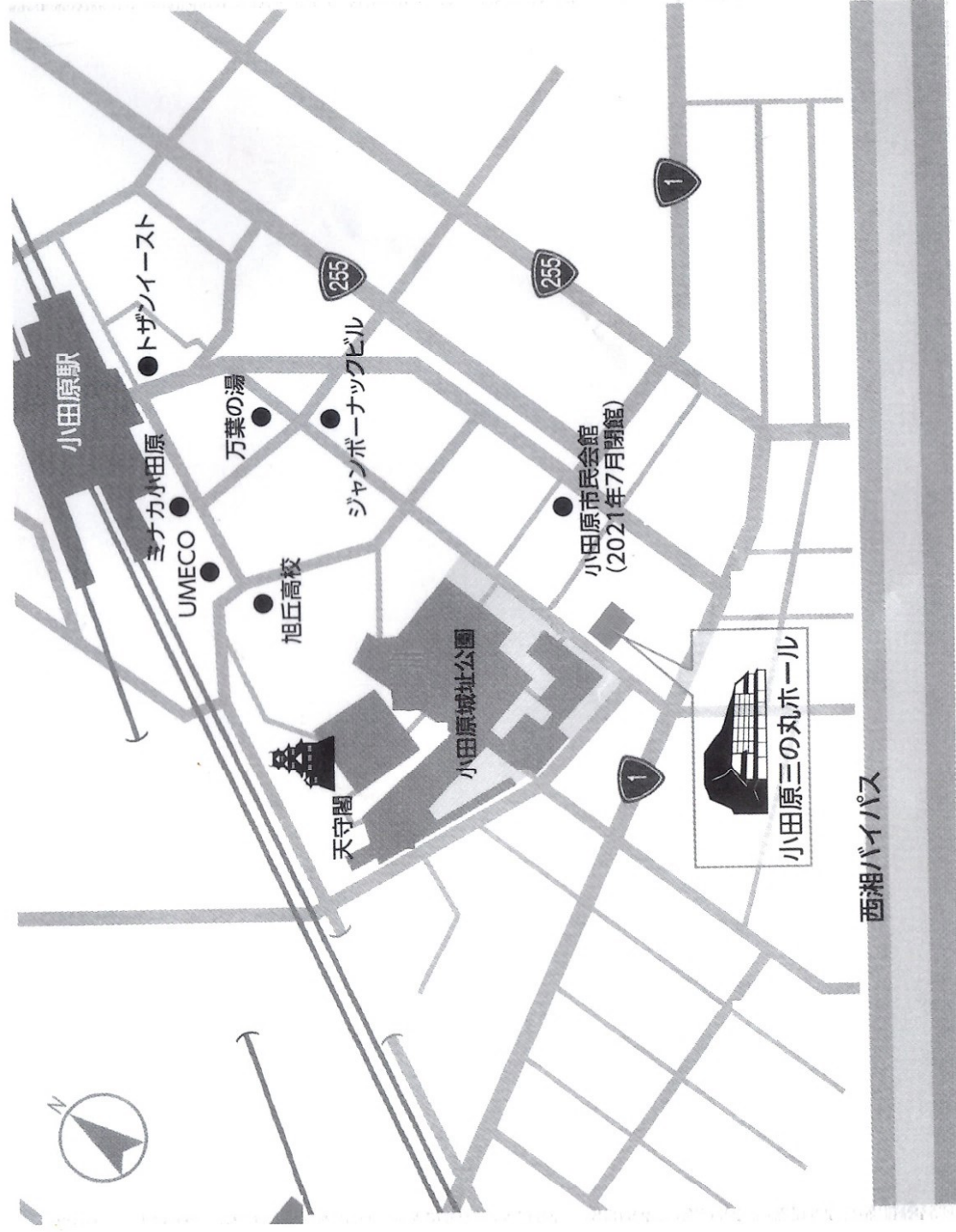
チケット販売に関するお問い合わせは  
小田原男声合唱団事務局  
090-4677-6315/杉本  
URL <http://odadan.org>

後援 日本男声合唱協会 (JAMCA)  
神奈川男声合唱協会 (KAMCA)  
湘南合唱連盟  
小田原地区合唱連盟

時節柄、花束・贈り物等は、かたのご辞退申し上げます  
無断での録音・録画をお断りいたします

# 小田原三の丸ホール

小田原市本町一丁目7番50号



駐車場・駐輪場はございません。周辺の駐車場・駐輪場をご利用いただくか、公共交通機関でご来場ください。

## 【アクセス】

<電車>

JR東海道本線・小田急小田原線「小田原」下車、徒歩13分

## 【お願い】

- ・マスク着用の上ご来場下さい。
- ・チケットの半券にお名前・電話番号をご記入下さい。  
(万が一 感染者が確認された際の連絡の連絡に使用します。それ以外では使用しません。)
- ・体調の悪い方は、ご来場をご遠慮ください。
- ・ご来場の際検温を行いますますが、37度5分以上の方は、入場をお断りすることがあります。